文部科学省 大学間連携共同教育推進事業　平成 24 年度選定取組
ふくしまの未来を拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム

平成 28 年度

事業実施計画書一覧
（シラバス）

アカデミア・コンソーシアムふくしま

■　目　次

○ この事業について ･･･ 1

○ この事業実施計画書一覧（シラバス）について･････････････････････････････････････ 2

○ 平成 28 年度　実施する取組一覧 ･･･ 3

○ この事業で使用するルーブリック（GLidD）･･･ 4

○ Project 1　地域の産業諸機関との連携の下ですすめるモデル的教育プログラム

ふくしま映画塾 ･･･ 6

発電所見学会 ･･･ 7

森であそんでみよう　―キッツ森のようちえんへの参加― ･････････････････････････････ 9

大学間交流セミナーin 只見･･･ 11

福島県の森林保全・地域活性化を体験して考える･････････････････････････････････････ 12

○ Project 2　逆境を逆手にとった「強い人材」の育成

ふくしまキッズ博をフィールドにした親子支援事業における学習･････････････････････････ 14

○ Project 3　大学生が発信する「入学前教育」

高大連携によるキャリア形成合同座談会 ･･･ 15

学生が実験教室や福島県中学生ブリッジデザインコンテストで、

小・中・高校生に教えることをとおして学びを深める取り組み･････････････････････ 16

○ Project 4　グローバル教育推進プログラム

Fukushima Ambassadors Program＋

福島の学生と世界の留学生が英語で共に学ぶ福島の未来･････････････････････････ 17

日本文化交流 ･･･ 19

○ Project 5　「開かれた内部質保証システム」のモデル開発

平成 28 年度合宿型討論会 ･･･ 21

■ この事業について

○　大学間連携共同教育推進事業「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり共同教育プログラム」について

この事業は少子化・人材流出等の影響で深刻な状況にある福島県において，県内の大学，短大，高専が単独では対応が困難な課題に対し，それら高等教育機関，及び企業・行政を含む地域のステークホルダーが連携して取り組むものです。５つのプロジェクトの具体的な目的とねらいについては，下表のとおりです。

プロジェクト名称	目的とねらい
Project 1 地域の産業諸機関との連携の下ですすめるモデル的教育プログラム	高度専門職業人ないし専門職業人養成を，地域の産業諸機関との連携の下ですすめるモデル的教育プログラムを開発し実施します。産官民学（地域産業界・地方自治体・地域住民・NPO 等・県内高等教育機関）連携を，研究や地域連携のみにとどめず教育課程に組み入れます。これにより，厳しい職業環境に耐える「強い人材」を養成します。
Project 2 逆境を逆手にとった「強い人材」の育成	震災及び原発事故によって生じた逆境を逆手にとり，復興過程に学生を参画させることで「強い人材」の育成に取り組みます。これにより，地元のステークホルダーが最も切望する「復興人材」を養成するとともに，来るべき大災害に有効に対処できるリーダーを全国に送り出すことができるようになります。
Project 3 大学生が発信する「入学前教育」	今回の災害によって大きなダメージを受けた県内の学校教育に，息の長い支援を行います。とりわけ高大連携を中心とした「入学前教育」に力を注ぎます。これにより，高い意欲と志をもった県内生徒の進学（とりわけ県内高等教育機関への進学）が促進されると同時に，本県の教育全体の復興に資することができるようになります。
Project 4 グローバル教育推進プログラム	世界中に「ふくしまの今」をアピールし国際化を進めます。原発事故によってマイナス・イメージが生まれている福島県から積極的な情報発信を行い，併せて留学生の学習環境を整備します。これにより，国際的スケールでの「風評被害」を払拭して地域全体の復興に資するだけでなく，国際的人材の供給にも貢献することができます。
Project 5 「開かれた内部質保証システム」のモデル開発	上記各プログラムを支える基盤として，「開かれた内部質保証システム」のモデル開発を行います。「地域」の期待を反映した学修成果の設定，初年次教育プログラムの開発，教員と事務職員が一体となった取組の高度化（ＦＤとＳＤの有機的な融合）を実現し，「教職協働の福島モデル」を構築します。これにより，大学連携の強みを生かした教職員人材ネットワークが生まれ，各高等教育機関の特質にもとづいた，確かな学力を保証する教育体制の強化を実現することができます。

■ この事業実施計画書一覧（シラバス）について

○　実施する企画について

いずれの企画も，平成 28 年４月以降に参加者を募集するものです。

それぞれの企画の実施日や募集対象，人数等については確定し次第，改めて公表をしますので，随時本事業のウェブサイト（http://acfukushima.net/）か，アカデミア・コンソーシアムふくしまの公式 Facebook ページ（https://www.facebook.com/ACFukushima/）をお確かめください。いずれの企画も，実施予定日の２ヶ月前を目処に参加者の募集が始まります。

○　「学修成果」の考え方について

この連携事業は先述のような５つのプロジェクトを通して，参加した学生本人の**①課題探求力**，**②課題解決力**，**③情報受信力**，**④情報発信力**，**⑤つなぐ力**，**⑥導く力**を育むことを目的に実施しています。これらの力の伸長を測定するべくそれぞれの力ごとに目安となるメタ・ルーブリック（GLidD）が定められており（pp.4-5 参照），これと対応するように目標となる到達段階（Step）がシラバスの中に記載してあります。詳細はアカデミア・コンソーシアムふくしま事務局までお問い合わせください。

○　「目指す学修成果」のレーダーチャートについて

このレーダーチャートの形がいびつな企画ほど，高くなっている力を重点的に強化する取組となります。線の色はプロジェクトにより色分けしてあります。

《 線の色について 》

—：Project 1　地域の産業諸機関との連携の下ですすめるモデル的教育プログラム
—：Project 2　逆境を逆手にとった「強い人材」の育成
—：Project 3　大学生が発信する「入学前教育」
—：Project 4　グローバル教育推進プログラム
—：Project 5　「開かれた内部質保証システム」のモデル開発

○　関連する科目について

この取組に参加をするにあたり履修が望ましい，連携校の正課の授業科目です。アカデミア・コンソーシアムふくしま正会員校の単位互換の対象となっている科目が多いですので，履修については各自でご検討ください。なお，単位互換については各大学の教務担当窓口またはアカデミア・コンソーシアムふくしま事務局までお問い合わせください。

★　その他のご不明な点について

この実施取組一覧（シラバス）についてご不明な点がございましたら，アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局（福島大学 地域連携課）までご連絡ください。

電話：**(024)548-5295**　　E-mail：**acf@adb.fukushima-u.ac.jp**

※　E-mail の場合は，件名（タイトル）に「シラバスについて」とご記入ください。

■ 平成28年度　実施する企画一覧

企画名称等						GLidDに基づく獲得目標（6段階）						
プロジェクト名称	企画名	スケジュール		対象となる学生		基本的な姿勢	探求課題力	解決課題力	受信情報力	発信情報力	つなぐ力	導く力
		募集時期	実施期間	学年	専攻分野等							
Project 1 地域の産業諸機関との連携の下ですすめるモデル的教育プログラム	ふくしま映画塾	6月以降	8月～12月			4	4	4	3	3	4	4
	発電所見学会	6月以降	8月～9月			3	3	2	3	3	3	3
	森であそんでみよう ―キッツ森のようちえんへの参加―	4月以降	6月～11月		保育者，小学校教諭希望者	4	4	4	4	4	4	4
	大学間交流セミナーin只見	11月以降	12月～3月	1・2年生	教員・保育士志望の学生	3	3	3	3	3	3	3
	福島県の森林保全・地域活性化を体験して考える	7月以降	9月～1月			3	3	3	3	3	3	3
Project 2　逆境を逆手にとった「強い人材」の育成	ふくしまキッズ博をフィールドにした親子支援事業における学習	4月	4月～12月			4	2	3	3	3	3	3
Project 3　大学生が発信する「入学前教育」	高大連携によるキャリア形成合同座談会	4月	5月～11月			4	4	4	4	4	3	3
	学生が実験教室や福島県中学生ブリッジデザインコンテストで、小・中・高校生に教えることをとおして学びを深める取り組み	随時	通年 ※特に夏季			4	2	3	3	3	3	3
Project 4　グローバル教育推進プログラム	Fukushima Ambassadors Program＋ 福島の学生と世界の留学生が英語で共に学ぶ福島の未来	6月以降	7月～1月			4	3	4	4	4	4	4
	日本文化交流	6月以降	8月			4	3	4	4	4	5	5
Project 5 「開かれた内部質保証システム」のモデル開発	平成28年度合宿型討論会	7月以降	9月			4	4	3	4	4	5	5

福島大学ACF「強い人材」 GLidD

ver 2.1

	Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身についているべきレベル（本来であれば）　＊高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル（本来であれば）　＊能動的学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）に参加可能なレベル　＊能動的学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしい規範を行動を通じて体現しており、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）で貢献可能なレベル　＊単位取得だけではなく、ゼミや研究を通じて少なくとも能動的に学修をしてきた修了レベルの学生像	大学卒業生として社会・経済活動に貢献する資質を有するレベル　＊単位を取得するだけではなく、大学で自ら能動的に学修・社会価値創出活動を行い自己研鑽を行ってきた能動的学修者	大学卒業生としてあるべき姿を体現しているレベル　＊大学で自らの活動領域を大幅に広げ、社会価値創出活動を率先して創出出来る能動的実践者
基本的な姿勢　～　地域社会においての学修・活動を行うにあたり、最低限必要となる基本的な姿勢や持つべき規範						
地域社会に対する貢献と学習意欲	自らがふくしまの地域に携わる学問を志す動機を自らの言葉で説明することができる。	特に自らが興味・関心がある社会・地域事象を説明することができる。	単位・資格・就職内定といった自らの実利のためではなく、自らが興味を有する社会・地域事象に関してどのように大学で学問として学ぶことができるか、理解しており説明することができる。	社会・地域価値貢献と自らの価値創出能力の向上のために、自発的に大学生活での学びを実践している。	近い将来（卒業後５年後程度）に地域において自らの目指す姿を明確に表明し、その実現のために自らに足りないこと、必要なことを大学で習得するための学修行動を実践している。	近い将来に自らの目指す姿と、創出したい社会・地域価値を示すことができ、その実現のための地域における活動を持続的に実践している。
共同体の一員、成人としての責任	必要となる書類や課題の提出など、大学生活において自らが行わなくてはならない業務に関して滞りなく、求められた期日・仕様で完了する。	授業の課題や宿題、提出課題など、教員から課された自主的な学習や業務を、インターネットからの完全なコピーや他者の記述の丸写しといった不正行為を働くことなく、誠実に自らの力で完遂する。	あらゆる授業や会合に、遅刻、欠席や早退をすることなく出席する。やむを得ない理由による遅刻・欠席・早退（病気・忌引きなど）の際には必ず事前（目安として、遅くとも半日以上前）に連絡と謝罪を行う。	教員や他の学生たちと協力し、大学生の組織や集団（部活動、ゼミ、プロジェクト、公認サークル等）における倫理的、道徳的、法的規範と約束を遵守することができる。	学生たちのリーダーとして、組織や集団（プロジェクト等）における倫理的、道徳的、法的規範と約束を形成することができる。	教員からの信頼を獲得し、教員の右腕として同級生や後進の指導を行うことができる。
異質な他者に対する敬意	日常において、対面で他者から聞かれた質問に対して、正誤に関わらず自分の言葉で質問に応えることができる。	形式的ではなく、対面で他者への敬意を示し、挨拶（おはようございます・こんにちは・こんばんは）と感謝・謝罪（ありがとう・ごめんなさい）の表明を行うことができる。	成人として不可欠な通信手段（電話・メール・SNS等）における他者とのやり取りのマナーを理解しており、実践することができる。	成人として礼節を持った態度を有し、学内のあらゆる教職員と対面での意思疎通を行うことができる。	世代や背景を超えて立場やバックグラウンドの異なる相手（教員など）であっても、成人として礼節を持った態度を有し対面での意思疎通を行うことができる。	世代や背景を超えて立場やバックグラウンドの異なる相手（地域の協力者を想定）に対して、場面や相手によって対面コミュニケーションの手法を変容させ、立場を超えて対面でのコミュニケーションや議論を行うことができる。
テキストコミュニケーション	大学生や同級生に対して（友人関係ではなく）公的な依頼を伴うメール・文書のようなテキスト文書を送付した経験を有する。	教員や学外の社会人に対して（親族を除く）公的な依頼を伴うメール・文書のようなテキスト文書を送付した経験を有する。	メールなどを通じたテキストコミュニケーションにおける礼儀や返信のルールなどの一般的な作法を理解し実行することができる。	学内の教職員に対して、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などをすることができる。	紹介された他大学の教職員、学外の社会人など世代や背景の異なる人々に対して、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などをすることができる。	一度も会ったことのない目上の他者に対しても、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などをすることができる。
ドキュメンテーション	授業や演習においてレポートを作成した経験がある。	レポート作成において引用や参照に関するルールを理解しており、　データの捏造・改ざん・盗用（コピペ）、といった不正を行うことなく実践することができる。	レポート執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえてレポートの執筆を実践することができる。	学修文書（学士卒業論文に相当）の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて学修文書の執筆を実践することができる。	公に発表される記事の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて公表される記事の執筆を実践することができる。	公に発表される学術論文の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて公表される学術論文の執筆を実践することができる。
課題探求力						
地域社会に対する能動的関与・・・・・・・・・地域に受け入れられる、地域に向き合うための能動的な力	地域の中で自ら興味を有する事象が存在し、その事象を五感で体感するために地域に足を運んだ経験がある。	様々な情報源から地域のことに興味を持ち、自らの思いや視点で地域についての興味・関心を表明することができる。	地域に足を運び、地域の関係者（ステイクホルダー）の視点で地域について説明することができる。	地域の直接的な関係者（ステイクホルダー）と、その先の間接的な関係者を含め、地域特有の文化や特徴を理解し、地域の代表者の一人として他者に対して説明することができる。	地域の関係者（ステイクホルダー）になるため、地域でのキャリア・進路を創出するための行動を実践している。	地域の関係者（ステイクホルダー）の一人として、地域の活性化や地域価値創出のために自らのキャリア・進路を確立することができる。
課題の探求・・・・・・・・・様々な事象や仕組みに興味を持ち、課題に向き合い解決課題を設定する力	授業や演習活動において、実際に行った様々な活動の中で見つけた自らの発見を呈することができる。	授業や演習活動において、実際に行った様々な活動の中で感じた疑問を呈することができる。	地域での対外的な協働活動（グループワーク等）の中で発見した様々な疑問点を教員に提示することができる。	地域での対外的な協働活動（グループワーク等）の中で発見した様々な疑問点や収集した情報をもとに、その背景や発生要因に関して教員と議論を行うことができる。	教員の指導や周囲の力を借りながら学術的な研究活動のための地域課題の仮説設定とその社会的意義を説明することができる。	自ら課題と目標を設定し、複数の他者を地域の協働活動に巻込み、課題を解決したり目標を達成した経験がある。
地域課題の分析・・・・・・・・・ 科学的にかつ総合的に地域課題を理解する力	授業や演習活動の中で他者（教員等）から与えられた課題に対して、課題を理解するための情報を収集することができる。	授業や演習活動の中で他者（教員等）から与えられた課題に対して、課題を深く理解するために最適な情報源を選定することができる。	授業や演習活動の中で他者（教員等）から与えられた課題に対して、収集した情報を取捨選択し情報をまとめあげることができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて公開情報では収集できない情報を収集することができる。	自らの情報リテラシーで独自の情報収集ネットワークを通じて収集した地域の情報と公開情報（先行研究・論文や紙面情報等）を選別し、自らが分析している課題との類似点や相違点をまとめあげることができる。	独自の情報収集ネットワークを通じて収集した地域の情報と公開情報（論文や紙面情報等）などを統合し、課題解決のために分析を通じて情報を効果的に活用することができる。
課題解決力						
新たな価値をもたらすアイデアの発案・・・・・・・・・地域の課題解決や地域活性化のために革新的なアイデアや解決策を発案することができる能力	授業や演習活動の中で、自らの意見を出すことができる。	授業や演習活動の中で、過去の事例や他の地域でのアイデアを他者に共有することができる。	授業や演習活動の中で、自らの発想・着想を表明することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、自らのアイデアを地域の他者（地域のステイクホルダー等）に提案することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、自らのアイデアを具現化（イベントでの実施、商品や事業など）した経験がある。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、自らのアイデアの具現化を通じて、経済的あるいは社会的地域価値の創出を行うことができる。
実践的な解決策の立案・・・・・・・・・事象や仕組みへの深い理解から、実践可能な解決策を立案する力	授業や演習において、規模の大小に関わらず地域課題の理解に取り組んだ経験がある。	授業や演習において、地域課題の理解に取り組み、他者に対して説明をするために、プレゼンテーション資料やレポート等、自らが調べたことを取りまとめた経験がある。	教員の指導や周囲の力を借りながら、地域課題に取り組み、他者に対して発表をした経験を有する。	地域において実践的な地域課題解決に取り組んだ経験を有する。	具体的な地域課題に対して、自ら実践可能な解決策を立案することができる。	具体的な地域課題に対して、自ら解決策を実践し具体的な成果を実現することができる。
解決行動の実践と持続・・・・・・・・・解決策から持続的な行動を起こし、実際に解決へと導く実践的な力	授業や演習活動の中で、求められるタスクや課題に取り組むことができる。	授業や演習活動の中で、他者から与えられたタスクや課題を超えて、成果の実現のための活動に自発的に取組むことができる。	地域において、具体的な成果を実現するための活動に取り組むことができる。	地域での活動に自らの目的を有し、自発的に取り組むことができる。	地域において、地域の人々から持続的に活動する有益な人的資源として認識されている。	地域においてこれまで実現できていなかった成果の実現に持続的に取り組み、自らの行動で地域にとっての新しい価値創出の成果を実現することができる。

福島大学ACF「強い人材」 GLidD

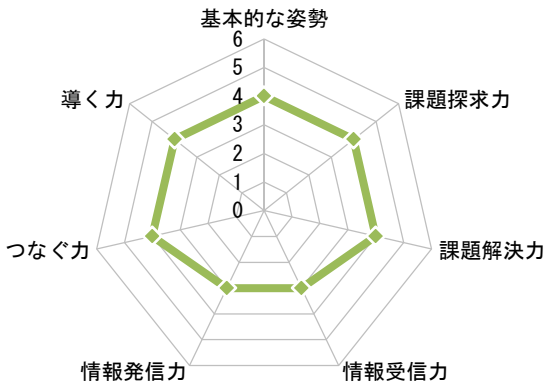
ver 2.1

	Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身についているべきレベル（本来であれば）　＊高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル（本来であれば）　＊能動的学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）に参加可能なレベル　＊能動的学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしい規範を行動を通じて体現しており、体験・演習型学修（ゼミ、アクティブ・ラーニング）で貢献可能なレベル　＊単位取得だけではなく、ゼミや研究を通じて少なくとも能動的に学修をしてきた修了レベルの学生像	大学卒業生として社会・経済活動に貢献する資質を有するレベル　＊単位を取得するだけではなく、大学で自ら能動的に学修・社会価値創出活動を行い自己研鑽を行ってきた能動的学修者	大学卒業生としてあるべき姿を体現しているレベル　＊大学で自らの活動領域を大幅に広げ、社会価値創出活動を率先して創出出来る能動的実践者
情報発信力						
情報受信力（傾聴力共感力）						
異質の受容と共感を通じた関係性の構築・・・・・・・・・自らとは背景の異なる他者を受け入れ、共感を生み出す力	他者との協働活動（グループワーク・部活等）を行うことができる。	他者との協働活動を通じて個々人の違いを認識することができる。	他者との協働活動を進めるために、個々人の違いを活かしながら協働を実践することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）を通じて地域のステイクホルダーの置かれた立場や主張などを受容し、他者の声を引き出すことできる。	対外的な協働活動（グループワーク等）を通じて地域のステイクホルダーの声には出さない本音まで汲み取り、複数のステイクホルダーの関係性を理解することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）を通じて地域のステイクホルダーの置かれた立場や主張、声には出さない本音などを汲み取り、複数のステイクホルダーの関係性を可視化（ステイクホルダーマッピング）を行うことができる。
情報解釈・分析						
情報の収集と編集・・・・・・・・・情報を集めて、集めた情報を取捨選択しまとめ上げる力	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクト（フィールドワーク・グループワーク等）において、他者（教職員等）から与えられた課題に対して、地域における活動を通じて会得した情報をノート等に記録することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクト（フィールドワーク・グループワーク等）において、地域の活動を通じて会得した情報を整理しまとめた経験がある。	地域の活動を通じて会得した情報やインターネットや文献などで調べた情報（客観的な情報）と自らが思うこと・感じること（主観的な情報）などを整理してまとめることができる。	対外的な協働活動（チームでの活動や学外の人との活動等）の中で、様々な情報源から収集した情報を取捨選択し、分析と分析結果からの考察を導くことができる（プレゼンテーション等）。	対外的な協働活動（チームでの活動や学外の人との活動等）の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて収集した現場の情報と公開情報（学術的な論文や紙面情報等）などを統合し、分析結果を通じて課題解決に取り組んだ経験がある。	対外的な協働活動（チームでの活動や学外の人との活動等）の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて収集した現場の情報と公開情報（学術的な論文や紙面情報等）などを統合し、分析結果を通じて課題解決を実現することができる。
論理的思考性・・・・・・・・・収集した情報を精査・活用して課題解決や地域協働のための分析を行うことができる能力	授業や演習活動の中で、自らの疑問点に関して口頭で他者に質問をすることができる。	授業や演習活動の中で、正誤の解答のない問いに対して自らの意見と立場を表明することができる。	授業や演習活動におけるグループでの議論の中で、自らの意見と立場を論拠を持って表明することができる。	授業や演習活動におけるグループでの議論の中で、自らの意見と参加者の意見・立場・論拠の整理を行い、論拠を持って集団での意思決定を実現することができる。	地域の他者に対して自らの提案を論拠を持って表明し、合意を得ることができる。	様々な見解や反対意見が存在する中で、地域の他者に対して自らの提言・提案の価値が他の提案よりも優れていることを客観的論拠をもって説得し、合意を得ることができる。
情報発信力						
情報の発信・・・・・・・・・情報を受容者の視点で価値あるものに変換し、発信する力	自らが経験した地域における活動（フィールドワーク、ボランティア、サークル活動等）を他者に共有することができる。	授業や演習において、自らが経験した地域における活動について発表をすることができる。	学内の教職員等に対して、自らの地域における活動を通じて気がついた発見や地域の課題を説明することができる。	学外の自らとは年齢や背景が異なる人々に対して、自らの地域における活動を通じて気がついた発見や地域の課題を説明することができる。	自らの地域での体験を通じて気がついた発見や地域の課題を、他者に報告するための文書（レポート・報告書等）を作成し提出した経験がある。	公に公開されるメディア（学内外の広報誌、学内外に公開する活動報告書、インターネットメディア（FacebookやTwitterなどのSNSは除く））に対して、自らの地域における活動を通じた発見・課題を発信することができる。
つなぎ・導く力						
つなぐ力（コミュニケーション力）・・・・・・・・・ 地域課題を解決するために、多様なセクターと協働する力						
協働活動の実践・・・・・・・・・集団で他者とともに動き働くことを実践する力	授業や演習活動の中で、目的を有した協働活動を行うことができる。	授業や演習活動の中で、他者の意見や行動から新たな発見や学びを得ることができる。	授業や演習活動の中で、他者の異なる意見を受け入れ、自らの考えに妥協することなく協働作業に取組むことができる。	世代や背景の異なる地域のステイクホルダーの意見を受入れ、かつ自らの考えに妥協することなく目的達成のために協働作業に取組むことができる。	目的達成のために地域の企業やNPO、行政など法人や公的組織の人々と共に協働活動を行うことができる。	目的達成のために地域の企業やNPO、行政など法人や公的組織の人々を活動に巻込み、地域活動における成果を実現することができる。
他者とのコミュニケーション・・・・・・・・・他者と向き合い他者の意見を受け入れ、自らの意見をも理解させる対話・会話を行う力	授業や演習活動における議論の中で、他者の意見を受入れることができる。	授業や演習活動における議論の中で、他者の意見とその背景を理解し、代わりに説明することができる。	授業や演習活動における議論の中で、他者の立場と感情を踏まえ、共感を持って他者の意見を表明することができる。	地域の他者の意見を聞き入れ、議論を行うことができる。	地域の他者の立場や考え方を理解し、地域の他者の立場や考え方を踏まえて、自らのコミュニケーションを適切に対応させて議論を行うことができる。	様々な見解や反対意見が存在する中で、地域の他者の立場や考え方を踏まえて、自らのコミュニケーションを適切に対応させることで地域の他者との合意を導くことができる。
導く力（マネジメント力）・・・・・・・・・多様な価値観を有する他者を巻き込み、集合知での創造的価値創造を実現することができる能力						
リーダーシップ・・・・・・・・・多様な価値観を有する他者を巻き込み、集合知での創造的価値創造を実現することができる能力	授業や演習活動において、自らの意欲を持って集団での協働活動に取り組むことができる。	授業や演習活動において、協働活動を行う際に自ら集団の活動目的を設定することができる。	授業や演習活動において、複数の他者と協働活動を行う際に自らの働きかけで集団の中での組織内での問題を解消することができる。	授業や演習活動において、他者との議論を通じて、考えうる複数の選択肢の中から論拠を持って一つの選択肢に絞り込み、集団としての意思決定をすることができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、事業実施の中で起こる問題（コンフリクト）の解消や関係者（ステイクホルダー）との対話を実践し、最終的な成果を実現することができる。	自らがリーダーシップをとった対外的な協働活動（グループワーク等）の成果が関係者（ステイクホルダー）から評価され、新たな事業のリーダーとして地域価値創造の実現者として様々な事業を任される存在として認識されている。
集団における課題・目標の設定・・・・・・・・・集団が働きやすいように正しい目標を設定し、集合知の活用を導く力	授業や演習活動におけるグループワーク等を経験したことがある。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、教職員など、他者から設定された課題や成果目標を理解している。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、教職員など、他者から設定された課題や成果目標に対して、課題を解決したり目標を達成した経験がある。	授業や演習活動におけるグループワークに対する他者（教員やグループのメンバー等）の期待の水準を自発的に確認・合意し、取り組む課題や成果目標を設定するために必要な要素をまとめることができる。	授業や演習活動におけるグループワークに対する他者（教員およびグループのメンバー等）の期待の水準を自発的に確認し、取り組む課題や成果目標を自発的に設定することができる。	自ら課題と目標を設定し、複数の他者を地域の協働活動に巻込み、課題を解決したり目標を達成した経験がある。
事業計画の立案と完遂・・・・・・・・・発想やアイデア、商品や事業を持続的かつ発展的な計画として立案する能力	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、スケジュール管理と段取りの設定を行うことができる。	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、計画書を他者の力を借りて作成することができる。	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、計画書を自らの力で完成させることができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）のための事業計画設計を行う事ができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）のために成果の設定を伴う事業計画設計を行う事ができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で自ら立案した事業計画に基づき成果を実現することができる。
事業評価と改善・・・・・・・・・具体的に実行する事業の課題と発展機会を評価し、PDCAサイクルとして持続的・発展的に改善することができる能力	授業や演習活動の中で、他者のフィードバックを受け入れることができる。	授業や演習活動の中で、他者のフィードバックを活用し、自らの活動の改善を行うことができる。	授業や演習活動の中で、自らの活動に関してうまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価することができる。	授業や演習活動の中で、自ら実施した活動に関する課題を客観的に評価し、その課題改善を自らの力で実践することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、活動のうまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価することができる。	対外的な協働活動（グループワーク等）の中で、うまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価し、改善策を立案し協働活動からの成果を実現することができる。

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	ふくしま映画塾				
2	計　画　者	所属	福島大学 行政政策学類	職名	教授	
		氏名	久我 和巳			
3	協力する教員	①	所属	福島大学 人間発達文化学類	職名	教授
			氏名	渡邉 晃一		
		②	所属	福島大学 国際交流センター	職名	特任専門員
			氏名	永島 恭子		
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	・福島の今を学生の視点から映像化し、地域で共有するとともに発信していく。 ・映画製作のノウハウを学び、キャリア創造へと結びつける。 ・脚本作り、撮影、編集から上映まで映像作品を完成させる。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	8 月	映画の企画・脚本作り、ロケハン
		8 月	機材（カメラ、音声、編集ソフト等）の講習、撮影
		8 月	編集作業、上映会、活動の振り返り
		12 月	福島こどものみらい映画祭にて、上映、企画運営補助

			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	協同作業を通じてひとつの作品を完成させる	集団での議論および個別の責任を担った作業を通じて目標に立ち向かう姿勢を育てる。	4
		課題探究力	テーマに基づき、作品の企画・脚本を作る	課題に向き合い、議論を通じて解決していく力を養う。	4
		課題解決力	脚本に基づき、それを具体化する手段を発見する	協同活動を通じて、自分と他者のアイディアを具現化する経験を積む。	4
		情報受信力 情報発信力	完成した作品を公の映画祭で上映し、経験を発表する	他者に対し、自分の成果を発表し、かつ客観的な視点で批評する力を養う。	3
		つなぐ力 導く力	協同作業を通じて、作品の立案と完遂を行う。	対外的な協同作業において、自らの作品を地域の他者に対して発表する力を養う。	4
		目指す学修成果			

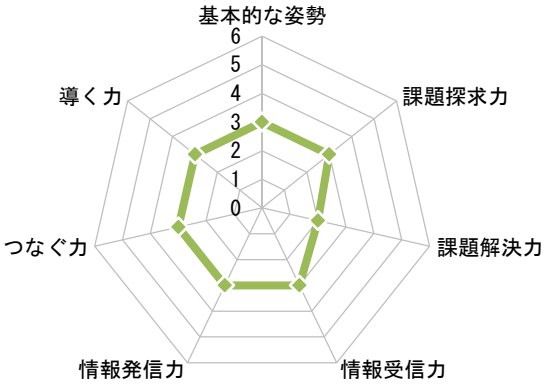
8	関連する科目	福島大学総合科目「映画の世界・映画と世界」

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	発電所見学会				
2	計　画　者	所属	会津大学短期大学部 産業情報学科	職名	教授	
		氏名	石光 真			
3	協力する教員	①	所属	※ 調整中	職名	
			氏名			
		②	所属	※ 調整中	職名	
			氏名			
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	福島県の発電所を見学することにより、福島県が電力供給県であることを知る。各種の発電を知ることによって、大学間の交流学習会において電力需給の今後を考える。 水力発電を中心に電力供給を行ってきた会津の発電所を見学する。 海浜という特性を利用して火力発電所や原子力発電所を発展させてきた相双地方の発電所を見学し、それとともに津波による被災と復興の現状を学ぶ。 このことにより、電力供給県たる本県が置かれた状況についての理解を深めるための課題探究力と、その現状を外へ発信する情報発信力を高めていく。また、大学間の交流学習会において異分野の見識を会場内にて共有することより、つなぎ・導く力を高めていく。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	8 月	東北電力原町火力発電所（石炭） 相馬市、南相馬市の津波の被害と護岸等の復旧復興の現状を学ぶ。 大学間の交流学習会を開く。
		9 月	ＪＰｏｗｅｒ下郷発電所（揚水）を見学し、100 万ｋＷの出力を持つピーク電力の役割を知る
			グリーン発電会津（木質バイオマス火力発電）を見学し、再生可能エネルギーでありながら安定的な出力を持ち、林業振興にもつながる木質バイオマス発電について学ぶ。
			ＪＰｏｗｅｒ郡山布引高原風力発電所を見学する。

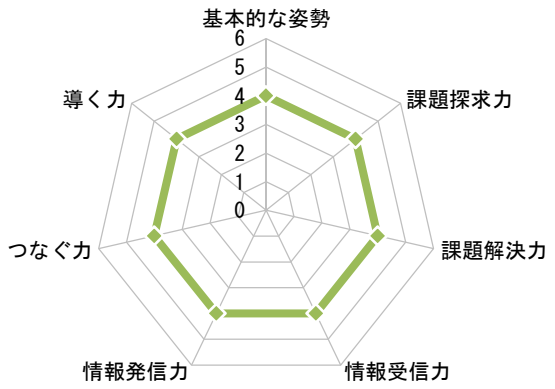
			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	エネルギー供給の現状を虚心坦懐に学ぶ。	発電の現場を見学することでエネルギー供給の実態の理解が深まる。理工系の学生については就職先のイメージがつかめる。	3
		課題探究力	安定的な電力供給とは何かという課題を探求する	各種発電を比較する中で理解が深まる	3
		課題解決力	二酸化炭素排出を減らすという課題を考える	各種発電を比較する中で理解が深まる	2
		情報受信力 情報発信力	福島県の電力供給の過去と未来を発信する	過去も未来も福島県が電力供給県であることの理解が深まる	3
		つなぐ力 導く力	大学間交流の学習会への参加	他大学、そして文理の専門を異にする学生との交流により視野が広がる	3

		目指す 学修成果	
8	関連する科目	日本経済論（会津大学短期大学部　経営情報コース専門科目） 卒業研究ゼミ（会津大学短期大学部　石光ゼミ）	

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	森であそんでみよう　―キッツ森のようちえんへの参加―				
2	計　画　者	所属	郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科	職名	講師	
		氏名	柴田 卓			
3	協力する教員	①	所属	福島大学 人間発達文化学類	職名	教授
			氏名	白石 昌子		
		②	所属	桜の聖母短期大学	職名	調整中
			氏名	調整中		
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	保育者・小学校教諭希望者			
5	目的とねらい	ねらいは、幼少期の子どもの自然体験活動の実際を知り、その中で、子どもがどのように成長するのかを実感すること、及び、学生自身が森での自然体験活動を経験することで、保育者（教育者）としての成長の幅を広げることである。そのためには継続的に子どもと関わることが必要であり、活動内容は「キッツ森のようちえん」の活動に１年間を通して継続的に参加することになる。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	第１回　６月	現地での事前講習及び川原子ダム周辺の探索ハイキング
		第２回　７月	沢登り予定
		第３回　８月	２泊３日のキャンプ「チャレンジキャンプ」
		第４回　９月	カヌー体験
		第５回　11 月	ネイチャークラフト

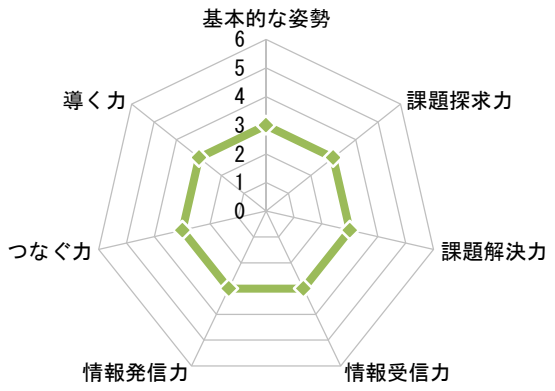
			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	第 1 回にて、キッツの理念、リスクマネジメント講習受講	キッツの子ども観と関わり方について理解する。活動エリアを理解する。毎回のふりかえりで自身の体験や疑問を整理する。	4
		課題探究力	第１回ハイキング 第 2 回沢登りにおいて自然の魅力・子どもの様子を深く観察する。	子どもの目線で自然を理解する。自然の中で子どもの興味・関心や言動・行動を探求し、子どもの変化・成長を理解する。	4
		課題解決力	第３回チャレンジキャンプにおいて、グループリーダーを担う。	自然の教育力を活かした子どもの関わり方、リスクマネジメント等について理解し、実践する。	4
		情報受信力 情報発信力	毎活動時とふりかえりで積極的にコミュニケーションをとる。	積極的に教員、保育士を目指す他大学の学生やスタッフとの意見交換をする。	4
		つなぐ力 導く力	毎回の活動を通して、自身の自然に対する意識を高く持つ	自然の中で自分自身が心地よく、遊べるようになり、自然を活用した保育・教育の意義を理解する。	4
		目指す学修成果			

8	関連する科目	【福島大学】幼児発達心理学、幼児の環境と保育、教育発達心理学、人間発達の基礎、幼児の健康と保育、 【郡山女子大学短期大学部】人間と健康、生活と環境、子どもの保健、保育の心理学など

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	大学間交流セミナーin 只見				
2	計　画　者	所属	福島大学 人間発達文化学類	職名	教授	
		氏名	谷　雅泰			
3	協力する教員	①	所属	福島大学 人間発達文化学類	職名	准教授
			氏名	阿内 春生		
		②	所属	福島大学 人間発達文化学類	職名	准教授
			氏名	坂本 篤史		
4	対象となる学生	学　年	１・２年生			
		専攻分野等	教員・保育士志望の学生			
5	目的とねらい	教員・保育士志望の学生は地方のなかでも都市部の出身者であることが多く、過疎地域に赴任してはじめてその実態に触れることになるケースも多いと思われる。そこで、過疎地域のひとつとして自然に恵まれ、人々のつながりも濃い只見町をフィールドに、学校や保育施設を訪問し、また子どもたちや教育関係者、地域住民とふれあいながら教員・保育士になることの意味を再確認する。また、他大学のおなじ志をもつ学生との交流を行う。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	11 月～12 月	募集開始、参加希望者の顔合わせと打ち合わせ（各大学）
		1 月	本取り組みに参加する他大学学生同士の交流
		2 月	只見町の保育所、小中学校への参観、新任教員との交流
		3 月	成果報告会での発表

			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	人口減少等の課題に向き合う現地への訪問	地域の課題に取り組む学校のあり方、教員のあり方について理解し、保育士、教員になることの意味を再確認する。	3
		課題探究力	教育長の講話、現地住民との交流	地域の関係者の視点や現地での体験を基に当該地域について説明することができる。	3
		課題解決力	只見町の保育所、小中学校への参観	地域の関係者の視点や現地での体験を基に課題解決のためのアイディアを出すことができる。	3
		情報受信力 情報発信力	新任教員との交流会、参加レポートの執筆	実際の体験や感じたことを「情報」として記録しておくと共に、自分が学んだことや現地での成果を語ることができる。	3
		つなぐ力 導く力	同じ志を持つ他大学の学生との交流	自身の身近な人や仲間と協働すると共に、目標達成のために指示されたことについて積極的に取り組むことができる。	3
		目指す学修成果			

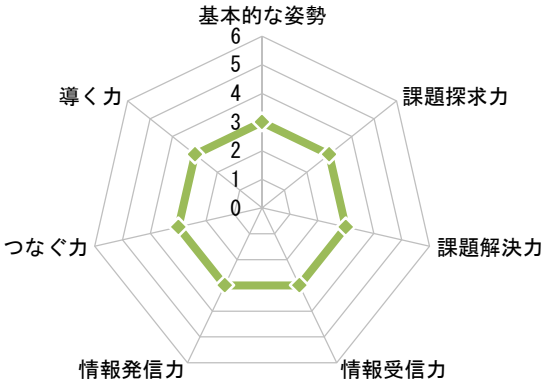
8	関連する科目	連携各校の教職関連科目

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	福島県の森林保全・地域活性化を体験して考える				
2	計　画　者	所属	福島大学 経済経営学類	職名	准教授	
		氏名	沼田 大輔			
3	協力する教員	①	所属	福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	職名	教授
			氏名	芥川 一則		
		②	所属	会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室	職名	准教授
			氏名	川口 立喜		
		③	所属	桜の聖母短期大学 キャリア教養学科	職名	准教授
			氏名	三瓶 千香子		
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	福島県は、全国 4 位の森林面積を有し、県土の 7 割は森林です。しかしながら、その森林を保全していく担い手は不足しています。そして、その森林を豊富に有する中山間地域は、過疎化・高齢化が深刻化しています。このプログラムでは、学生が、今後の福島県の森林保全、中山間地域の活性化に貢献できる人材になる契機を提供しようとするものです。今年度は、都市経済学や演習の授業との連動をより強く意識し、事前学習・事後学習をよりしっかり行い、学習成果を十分に得られるように進めます。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	9 月中下旬	南会津町中荒井地区で「もりづくりワークショップ」(1 泊 2 日) を実施 (COC の「地域志向教育研究経費」　もしくは ACF 事業を想定)
		10 月下旬	南会津町中荒井地区の如活祭への参画（日帰り） （COC の「みらいバス」　もしくは ACF 事業を想定)
		12 月上旬	福島県の集落復興支援事業が行われている「中山間地域の視察」 （1 泊 2 日を想定）(ACF 事業を想定)
		1 月中旬	南会津町中荒井地区の「歳の神」への参画 （福島県庁　「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を想定)
		1 月	福島大学周辺で、森林・中山間地域に関するイベントを実施（COC の「地域志向教育研究経費」、福島県庁「大学生の力を活用した集落復興支援事業」および、ACF 事業を想定)

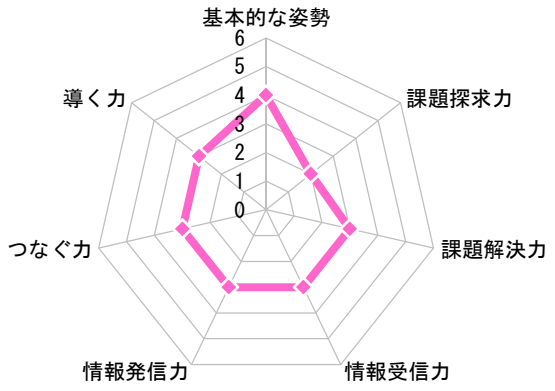
			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と 期待される 学修成果	基本的な姿勢	都市経済学と連動した中山間地域の視察	森林保全・地域活性化について、どのように大学で学問として学ぶことができるかを理解し説明することができる	3
		課題探究力	もりづくりワークショップ、如活祭、中山間地域の視察への参画	体験を通じて、森林保全・地域活性化のあり方、グループワークの進め方などについて、発見した様々な疑問点を、都市経済学などの授業で提起し議論することができる。	3
		課題解決力	もりづくりワークショップ、如活祭、中山間地域の視察への参画	体験を通じて、森林保全・地域活性化のあり方、グループワークの進め方などについて、都市経済学や、演習の授業の中で、自らの発想・着想を表明することができる。	3
		情報受信力 情報発信力	都市経済学や、演習の授業の中でのディスカッション	体験を通じて得た疑問点、自らの発想・着想をもとに、各自で調べたことなども踏まえて、他者と議論を交わし、自らの理解を深めることができる。	3
		つなぐ力 導く力	都市経済学や、演習の授業の中でのレポート	体験・ディスカッション・調べ学習・授業からの情報などを通じて、森林保全・地域活性化のあり方、グループワークの進め方などについて、都市経済学や、演習の授業における、最終レポートとして、完成させられる。	3

		目指す 学修成果	
8	関連する科目	・　都市経済学（単位互換可能。なお、取得した単位を各大学・高等教育機関でどう読み替えるかについては、各大学・高等教育機関次第） ・　福島大学経済経営学類 沼田教養演習	

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	ふくしまキッズ博をフィールドにした親子支援事業における学習			
2	計　画　者	所属	桜の聖母短期大学 生活科学科	職名	教授
		氏名	池田 洋子		
3	協力する教員	所属	福島学院大学 福祉学部	職名	教授
		氏名	藤原 正子		
4	対象となる学生	学　年	制限なし		
		専攻分野等	制限なし		
5	目的とねらい	福島県の子どもたちを元気にするためのプロジェクト「ふくしまキッズ博」において、福島市内の大学・短大が企画・運営の段階から連携し、子どもたちの遊び場を提供する。プロジェクトを成功させるための鍵のひとつがお互いの信頼関係の構築である。学生自らが企画・運営を行うにあたり、課題を探求し、解決するためにチームで働く力が求められる。そのため講師を招き、コーチングのワークショップを実施する。また、キッズ博では SNS を利用した情報発信も課題として設定されているために情報発信力も高まることが期待されている。			

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	4 月下旬～	学生事務局会議　月に 1 回
		7 月下旬	ふくしまキッズ博(あづま総合体育館)
		秋頃	合同成果報告会

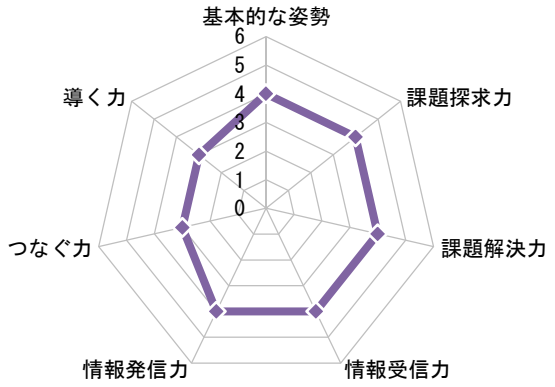
			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	共同体の一員、成人としての責任	他の学生たちと協力し、プロジェクトにおける倫理、約束を遵守することができる。	4
		課題探究力	課題の探求	プロジェクトにおいて、実際に行った活動の中で感じた疑問を呈することができる	2
		課題解決力	新たな価値をもたらすアイデアの発案	プロジェクトの中で、自らの発想・着想を表明することができる。	3
		情報受信力 情報発信力	情報の収集と編集	プロジェクトにおいて、会得した情報を整理しまとめることができる。	3
		つなぐ力 導く力	集団における課題・目標の設定	プロジェクトにおいて他者から設定した課題や成果目標を理解している。	3
		目指す学修成果			

8	関連する科目	福祉学(ボランティアワーク)

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	高大連携によるキャリア形成合同座談会				
2	計　画　者	所属	福島大学 総合教育研究センター	職名	教授	
		氏名	五十嵐 敦			
3	協力する教員	①	所属	会津大学短期大学部 産業情報学科	職名	教授
			氏名	平澤 賢一		
		②	所属	郡山女子大学 家政学部	職名	准教授
			氏名	安田 純子		
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	進学や就職など高校生の進路形成について，高等教育機関で学ぶ学生たちが高校生とともに考え情報交換することで，自らのキャリア形成を積極的にとらえ，互いに日常の課題解決と今後の学びや諸活動に意欲的に取り組めるようにする。 このことにより、課題探求・解決力、情報発信力、つなぎ・導く力を高めていく。				

6	具体的な計画	実施時期	内　　容
		５～７月	学生スタッフ会議
		８月	合同座談会準備会議
		９月	県内高校での合同座談会
		１１月	活動のまとめと報告会

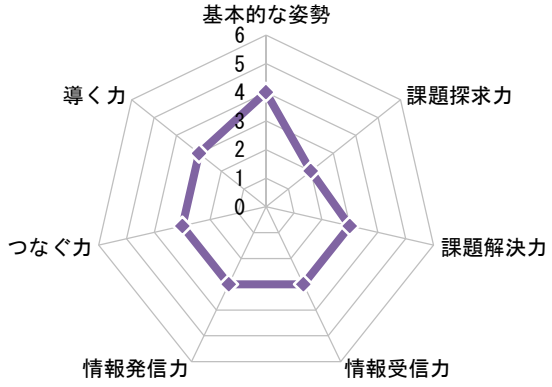
7	内容と期待される学修成果		内　　容	期待される学修成果	Step
		基本的な姿勢	地域社会への貢献と学ぶ意欲	人権と正義を意識しながら，自発的に大学での学びを発展的に展望できる。	4
		課題探究力	対外的活動と情報収集力	共同作業を通じた情報収集と独自の方法の工夫による情報収集ができる。	4
		課題解決力	説明とプレゼンテーション	さまざまな情報の整理と分析によって得られた結果を提示できる。	4
		情報受信力 情報発信力	発見や課題の説明	活動を通じて気付いたことや発見した課題を説明することができる。	4
		つなぐ力 導く力	事業評価と改善	共同活動の中でその評価と改善案を出すことができる。	3
		目指す学修成果			

8	関連する科目	キャリア形成論，職業心理学

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	学生が実験教室や福島県中学生ブリッジデザインコンテストで、小・中・高校生に教えることをとおして学びを深める取り組み				
2	計　画　者	所属	福島工業高等専門学校 物質工学科	職名	教授	
		氏名	青柳 克弘			
		所属	福島工業高等専門学校 建設環境工学科	職名	嘱託教授	
		氏名	根岸 嘉和			
3	協力する教員	① 所属	福島工業高等専門学校 建設環境工学科	職名	助教	
		① 氏名	加村 晃良			
		② 所属	連携校	職名		
		② 氏名	連携校の全教職員			
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	普段は学ぶ側の学生が教える側に回り、全天候型移動式ラボラトリーである実験トラックを使って、何時でも何処でも誰にでも，実験を披露する環境・機会を与えることを，目的とする。 特に、バルサブリッジデザインコンテストやモノづくり体験学習会では、学生はその運営や参加した小・中学生への指導の補助を通じて，専門分野の知識・技術やつなぎ・導く力等の向上に資する。				

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	通年	実験トラックを用いた科学実験
		8 月～9 月	ブリッジデザインコンテストの指導・運営補助
		夏休み中	モノづくり体験学習会

			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	異世代対象者に対する理解と貢献心	調査や実践により、異世代対象者や地域社会への理解と貢献心を養うことができる。	4
		課題探究力	実験や創作内容や教え方の探求	常に実験や創作内容を考え、教員から情報を得るなど教え方の探求ができる。	2
		課題解決力	実験や創作のアイディアや教え方の発案と実施	調査や試作の実践により、実験や創作内容のアイディアや教え方の発案と実施ができる。	3
		情報受信力 情報発信力	学ぶ側の学生が教える側に回ること	学生が教える側に回ることで，更に自身のポテンシャルを引き出すことができる。	3
		つなぐ力 導く力	コミュニケーション能力	科学実験やモノづくりを通じて、異世代とのコミュニケーション能力を高めることができる。	3
		目指す学修成果			

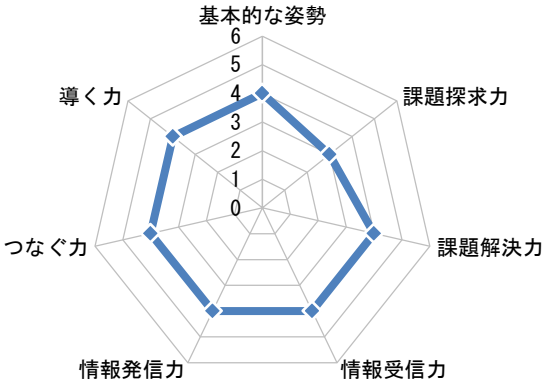
8	関連する科目	実験系科目、創作実習、力学基礎、構造力学

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	Fukushima Ambassadors Program＋　福島の学生と世界の留学生が英語で共に学ぶ福島の未来			
2	計　画　者	所属	福島大学 経済経営学類	職名	助教
		氏名	マクマイケル ウィリアム		
3	協力する教員	所属	会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室	職名	准教授
		氏名	川口 立喜		
4	対象となる学生	学　年	制限なし		
		専攻分野等	制限なし		
5	目的とねらい	福島大学の海外協定校から留学生を約 2 週間の短期プログラムに招聘し、本県の学生との協働学習を通じて、被災地福島の直面する諸課題について理解を深める機会を提供するものである。本科目のねらいは「3.11 の被災地福島の復興」について参加学生が世界規模で物事をとらえる力を身に付けることであり、ひいては本事業「強い人材」における「情報受信発信力」の獲得のほかに、地域における「課題発見力」を獲得することが出来る。			

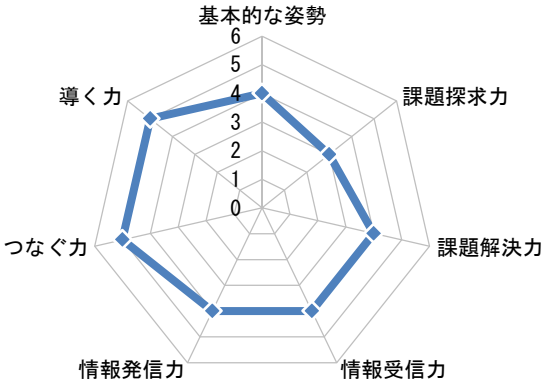
		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	７月３１日～８月１０日	トルコ、アメリカ、ドイツなどから留学生２０名を招き、２週間の短期留学プログラムを実施
		平成２９年１月中旬	アメリカ、ドイツ、オーストラリア、中国などから１０名の留学生を招き、２週間の短期留学プログラムを実施

			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	地域人材の意見を英語に翻訳した講義、被災地の視察、外国人留学生とのグループワークを行う	①　異なる文化との協調・協働力 ②　物事を多角的・多面的に考察する力 ③　自身の考えを、行動に移せる力 を育むことを目指す。	4
		課題探究力	最終日に留学生とのグループワークを終日行い、２週間のプログラムの中で学んだことの振り返りを行う	地域や学内外での対外的な共同活動（グループワークなど）の中で発見した様々な疑問点を教員に提示する事ができるようになる。	3
		課題解決力	警戒解除準備区域や被災地、仮設住宅でのボランティア活動を行うことで、PBL 学習を行う	地域や学内外の現場において、具体的な成果を実現するための活動に自らの目的を有し、自発的に取り組むことができるようになる。	4
		情報受信力 情報発信力	最終日に、プログラム後自分たちができる情報発信方法などについて各自発表をさせる	学内外の自らとは年齢や背景が異なる人々に対して地域や学内外における活動を通じて気がついた発見や現場の課題を説明することができるようになる。	4
		つなぐ力 導く力	留学生、日本人学生が共に協働し、被災者、科学者、政府関係者、ＮＰＯ団体代表など、様々な「異文化」同士と意見を述べ合い交流する	自ら課題と目標を設定し、複数の他者を共同活動に巻き込み、課題を解決したり目標を達成することができるようになる。	4

		目指す 学修成果	
8	関連する科目		

平成 28 年度　シラバス

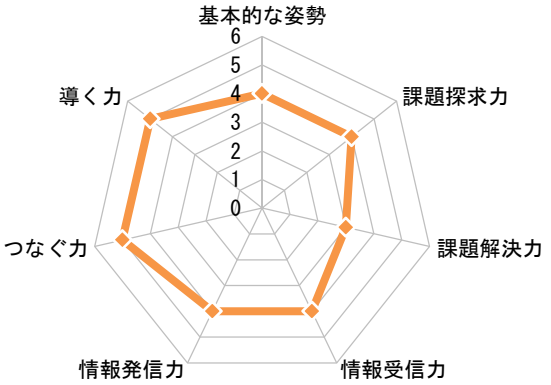
1	名　称	日本文化交流				
2	計　画　者	所属	郡山女子大学 家政学部	職名	教授	
		氏名	諸岡 信久			
3	協力する教員	①	所属	郡山女子大学 家政学部	職名	講師
			氏名	影山 志保		
		②	所属	会津大学 グローバル推進本部 国際戦略室	職名	准教授
			氏名	川口 立喜		
4	対象となる学生	学　年	制限なし			
		専攻分野等	制限なし			
5	目的とねらい	県内で学ぶ留学生（長期・短期）が、郡山女子大学が持つ有形無形の文化財産にふれて、さらには福島県の学生と交流することで、福島県の歴史と日本文化を直接体感して学ぶ。日本人学生が来訪する留学生をもてなすことで、異文化者と触れ合い交流を通じ、自らの語学力や国際的視野の到達点や不足を実感し、事後の学修意欲に結びつける。				
6	具体的な計画	実施時期	内　　容			
		８月前半	郡山女子大学会場に会津大学や福島大学の留学生を招く			
7	内容と期待される学修成果		内　　容	期待される学修成果	Step	
		基本的な姿勢	郡山女子大の諸施設を留学生と日本人学生が共に見学し、実体験し、交流する	異文化他者とのコミュニケーション力と、相手の求めることに対応した課題解決力を育くむことができる。	4	
		課題探究力	放射線測定された食物や、浴衣の着こなし、猪苗代湖の発掘など様々な体験をする	【留学生】日本の文化と歴史とりわけ被災後の福島県の状況を体感的に学ぶ。 【日本人学生】相手の求めるものを探し当てる探求力を育むことが出来る。	3	
		課題解決力	【留学生】事後のリフレクションシートに自分は何が出来るかまとめる。 【日本人学生】学生はどのようなもてなしが出来るか考える	【留学生】地域の歴史を踏まえて、自分は何が出来るか解決する力を育む。 【日本人学生】相手の求めに対応して自ら解決する力を育むことが出来る。	4	
		情報受信力 情報発信力	文化交流中に、留学生と日本人学生をグルーピングし、コミュニケーションを図る	言語の異なる他者とのコミュニケーションと、自らの語学力の到達点を痛切に自覚し、更なる向学心をもたらす。	4	
		つなぐ力 導く力	諸企画において、学生が主体的に企画を立案し、他者のために一丸となって進める	福島県民のおかれた実情に触れる、そして会場全体で他者をもてなすことを一丸となって進めることで、つなぐ力を育むことができる。	5	

		目指す 学修成果	
8	関連する科目		

平成 28 年度　シラバス

1	名　称	平成 28 年度合宿型討論会			
2	計　画　者	所属	福島大学 総合教育研究センター	職名	准教授
		氏名	高森 智嗣		
3	協力する教員	所属	※ 調整中	職名	
		氏名			
4	対象となる学生	学　年	制限なし		
		専攻分野等	制限なし		
5	目的とねらい	合宿型討論会は、福島県内の高等教育機関に所属する学生、教職員、及び地域のステーク法ルダーが一堂に会し、大学等における教育改善を検討することを目的とし、本討論会の成果を具体的な改革に繋げることをねらいとしている。			

		実施時期	内　　容
6	具体的な計画	9 月	1 泊 2 日の合宿研修を実施する。

			内　　容	期待される学修成果	Step
7	内容と期待される学修成果	基本的な姿勢	異質な他者と協働することが出来る。	自身の意見と他者の意見を尊重しながら、建設的に議論をすすめる事ができる。	4
		課題探究力	現状と課題を客観的に把握する。	テーマについて、主観的な情報に加えて客観的な情報から課題を発見できる。	4
		課題解決力	新しい解決策を提示する。	自身と他者の意見を組合せて、新しい課題解決策を提示できる。	3
		情報受信力 情報発信力	議論の成果を分かりやすく提示する。	他者に対して分かりやすく成果を発表することが出来る。	4
		つなぐ力 導く力	自らの役割を意識しながら協働する。	異質な他者を尊重しながら、自身の役割を果すことが出来る。	5
		目指す学修成果			

8	関連する科目	各連携校の初年次教育科目